

第5回揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリ検討会 議事要旨等(案)

1. 日時 平成 19 年 7 月 25 日(水) 10:00~12:00
2. 場所 主婦会館プラザエフ カトレア
3. 議題
 - (1) VOC 排出インベントリ検討会の進め方について
 - (2) 推計精度の向上に関する調査方法について
 - (3) 法令取扱分類に関する調査方法について
4. 出席者
委員:浦野委員長、指宿委員、桐明委員、久米委員、柴田委員、高戸委員、洞雞委員、南齋委員、野中委員、保坂委員、山口委員、油井委員
オブザーバー:海野氏(日本クリーニング環境保全センター)
環境省:岩田大気環境課長、米田大気環境課長補佐
事務局:社団法人 環境情報科学センター
5. 議事内容
 - 事務局より、VOC 排出インベントリ検討会の進め方(案)について説明があり、議論が行われた。主な検討結果は以下のとおり。
 - ・ インベントリの対象としない発生源に係る排出量については、本検討会で検討する固定発生源に係る VOC 排出量の全 VOC 排出量のなかの位置づけを確認する程度のもので検討する。
 - ・ 大気のモニタリング結果で、比較的高濃度が検出された物質については、推計から漏れていないかを確認する。
 - 事務局より、推計精度の向上に関する調査方法(案)について説明があり、議論が行われた。主な検討結果は以下のとおり。
 - ・ 化学製品の製造に係る VOC 排出を、発生源品目ごとの排出量に分解するための調査は、アンケートの精度、労力、スケジュールの制約等々困難な点が多いことから、アンケート実施にあたっては、推計精度向上の点でその必要性を十分に検討し明らかにする。また、回答するときに負担がかからないように配慮し、実施可能な調査方法について、(社)日本化学工業協会と十分協議、検討する。
 - ・ 日本標準産業分類等を用いて業種ごとにどのような発生源品目の取扱に係る排出があり得るのかを再度確認する。
 - ・ アウトサイダーに係る排出の実態については、関係する業界団体にヒアリングを実施する。
 - ・ 「その他(不明分を含む)」における排出の実態について重点的に調査を実施する。

○ 事務局より、法令取扱分類に関する調査方法(案)について説明があり、議論が行われた。主な検討結果は以下のとおり。

- ・ 調査の実施の際には、関係する業界団体と調査方法について十分協議を行う。
- ・ 検討会等に提出する計算結果については、事務局の試算であるか、検討会として承認されたデータを明示する。
- ・ 業界団体別の調査を実施する際には、発生源品目別・業種別排出量のどの部分について聞きたいのか、また排出量はどの程度かについて明示する。

<配付資料>

議事次第

VOC 排出インベントリ検討会 配席表

資料1:平成 19 年度 VOC 排出インベントリ検討会の進め方について(案)

資料2:推計精度の向上に関する調査方法(案)

資料3:法令取扱分類別排出量データの収集方法(案)

参考資料1 揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリについて(報告)(平成 19 年 3 月、揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリ検討会)

参考資料2 揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリ(平成 12 年度及び平成 17 年度排出量)(平成 19 年 3 月、環境省 水・大気環境局大気環境課)

平成 19 年度 揮発性有機化合物排出インベントリ検討会開催要綱

以上

第 5 回検討会における指摘事項と対応状況・方針(案)

指摘事項	対応状況・方針(案)
<p>東京都の環境中濃度の多成分モニタリングで比較的高濃度で検出された物質が、排出インベントリの対象となっているかどうか、確認を行うべきである (保坂委員)</p> <p>① ※エタン、エチレン、プロピレンなど ※「平成 17 年度 有害大気汚染物質モニタリング調査報告書」(平成 19 年 1 月、東京都環境局)をご提供頂いた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東京都のモニタリング調査において、高濃度が検出されている物質と排出インベントリの推計対象物質を比較した。 ・ 排出インベントリの対象としなかった発生源における VOC 排出量の物質内訳から、上記の高濃度検出物質を抽出した。 ・ 排出インベントリとして追加すべき物質の候補を検討した。 <p>(→参考資料)</p>
<p>② 「その他(不明分を含む)」の使用に係る VOC 排出実態の詳細把握を行うべきである (高戸委員、指宿委員)</p>	<p>インベントリの不明部分について、追加調査の必要性を検討中 (→資料2)</p>
<p>③ 推計精度の向上の優先順位付けの根拠を明確にしておくべきである(山口委員)</p>	<p>優先順位付けの考え方と結果を整理した。 (→資料2)</p>
<p>④ VOC 排出量を使ったシミュレーションが別途行われており、自然発生源も対象にしているため、そのデータを引用したらどうか。 (指宿委員)</p>	<p>シミュレーションで使われている各種「排出インベントリ」の概要と自然発生源の扱い方やその値等を確認した。 (→参考資料)</p>
<p>⑤ 日化協の自主行動計画で提出している排出量は「製造」と「使用」にしか分かれていないため、調査内容を簡略化して、モデルケースについて調査するようにしたらどうか。 (山口委員、浦野委員長)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日化協に対してヒアリングを行い、調査方法について調整した。 ・ 新たな調査を実施する代わりに、既存のデータや業界ヒアリング等によって「反応溶剤」等の割合を物質別に設定する。
<p>⑥ 業種別に日本標準産業分類の中分類よりも詳細な小分類、細分類業種の内容を精査し、漏れている発生源品目はないのかを確認した方が良い。 (保坂委員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ VOC 排出インベントリの業種別データと PRTR の業種別データ(届出+届出外)を比較し、業種の過不足をチェックする。 (→参考資料) ・ 排出量の増減についても、PRTR の届出データとの比較によって妥当性を検証する。 (→資料4)
<p>⑦ 問題点を発見するためのアンケートを行う場合、業種と発生源品目の対応を示し、漏れている発生源品目はないのかを確認してもらった方が良い。 (南齋委員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「推計精度の向上に係るアンケート」を実施する際、業界団体ごとに関係する業種を確認し、数団体から過不足の指摘があった。 ・ 回答内容を精査した上で、改訂インベントリにおける業種設定に反映させる。
<p>⑧ アンケート等により挙げられた推計に係る課題については、排出量への影響に応じて優先順位付けをすべきである。(浦野委員)</p>	<p>VOC 排出量の合計への影響の大きさを勘案して課題としての優先順位を設定した。 (→資料2)</p>
<p>⑨ アウトサイダーにおける VOC 排出量の推計精度を改善する方法を検討した方がよい。(久米委員)</p>	<p>アウトサイダーについて系統的に情報収集することが可能か検討中。</p>
<p>⑩ 数値を出す場合には、事務局試算と検討会決定事項が明確に区別できるよう整理すべきである。 (久米委員、浦野委員長)</p>	<p>資料を作成する際は、左記のご指摘に十分留意して記述するよう努める。</p>